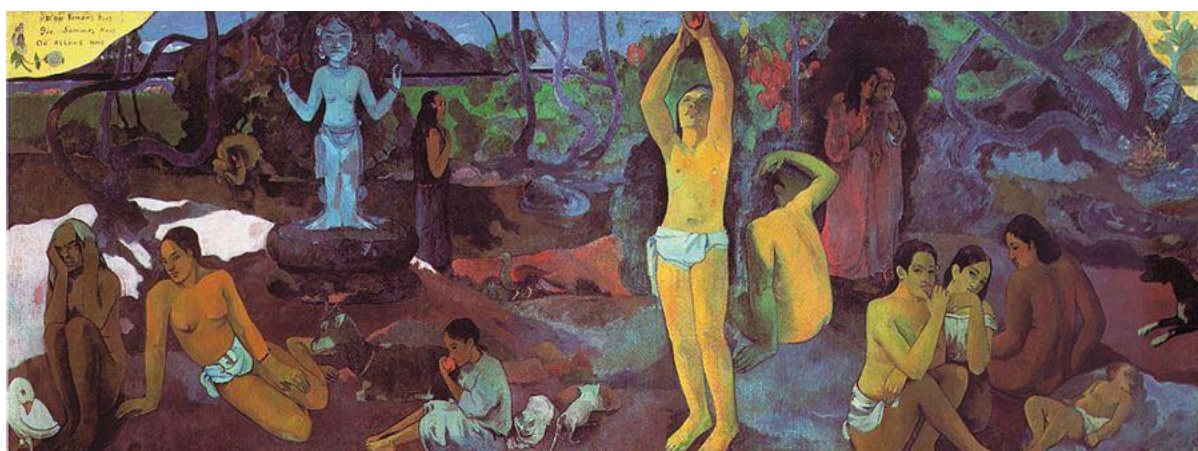


宗教学研究室紀要

THE ANNUAL REPORT ON PHILOSOPHY OF RELIGION



2012 vol.9

京都大学 文学研究科 宗教学専修 編

オンライン刊行物 http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/religion/rel-top_page/

第9号 (2012年) 目次

Heideggers Daseinsanalyse als Freundschaftslehre : Um die Miteinander-Befreiung Yoshiomi TANABE (3)	
メーヌ・ド・ビランにおける反省の動性と発生について 越後圭一 (21)	
Une réflexion sur le kantisme : le cas Paul Ricœur (2) Eriko SUENAGA (45)	
アウシュヴィッツの記憶と神の自己性——レヴィナス的倫理の可能性の条件の探求 根無一行 (68)	
ヤスパース『歴史の根源と目標』における信仰について 藤田俊輔 (88)	
ショーペンハウアーの色彩論から構成される構想力の問題についての若干の考察 と見通し 鳥越覚生 (107)	
編集後記 (128)	

——宗教学研究室紀要編集委員——

氣多雅子	京都大学大学院文学研究科	教授
杉村靖彦	京都大学大学院文学研究科	准教授
秋富克哉	京都工芸繊維大学大学院	教授
安藤恵崇	高知大学	教授

——第9号執筆者紹介——

田鍋良臣	京都大学	非常勤講師
越後圭一	トゥールーズ第二大学	博士課程
末永絵里子	パリ第10大学	博士課程
根無一行	京都大学大学院文学研究科	博士課程
藤田俊輔	京都大学大学院文学研究科	博士課程
鳥越覚生	京都大学大学院文学研究科	博士課程

**** 編集後記 ****

今年度の研究室紀要では、計六本という非常に多くの公募論文を掲載することができ、誠に嬉しく思っております。各論文の査読をご担当頂きました諸先生方には、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。先生方の懇切丁寧なご指導を通して、論文の内容がより一層深められたものとなりました。また先生方の的確なアドバイスのにより、今後の研究にも繋がり得る重要な論点が引き出され、新たな課題の発見の機会ともなりました。

今号で顕著なように、各執筆者の取り扱う思想家や問題関心は多種多様であります。この点にこそ、京都大学宗教学研究室の特色がよく表れていると言えます。今後とも、本研究室紀要を通して、学外に開かれた仕方で日々の思索を形にしていけるよう研鑽を積んで参ります。

(藤田俊輔記)

宗教学研究室紀要 第9号 (京都大学 文学研究科 宗教学専修 編)

2012年11月29日発行

Articles

- Heideggers Daseinsanalyse als Freundschaftslehre : Um die Miteinander-Befreiung
Yoshiomi TANABE 3
- Le dynamisme et la genèse de la réflexion chez Maine de Biran
Keiichi ECHIGO 21
- Une réflexion sur le kantisme : le cas Paul Ricœur (2)
Eriko SUENAGA 45
- La mémoire de Auschwitz et l'ipséité de Dieu :
à la recherche de la condition de possibilité de l'éthique lévinassienne
Kazuyuki NEMU 68
- Über den Glauben in Karl Jaspers' *Vom Ursprung und Ziel der Geschichte*
Shunsuke FUJITA 88
- Die etliche Betrachtungen und Übersicht über das aus der Schopenhauers Farbenlehre konstruierte
Problem der Einbildungskraft
Kakusei TORIGOE 107